

「飛鳥・藤原の宮都」

—世界遺産登録を果たして『美し“あすか”』の魅力を世界へ—

明日香村教育委員会

1. はじめに

明日香村では、現在、奈良県、橿原市、桜井市と共に「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を目指しており、令和7年1月には文化庁からユネスコに推薦書が提出されたところ。令和8年夏頃の登録が叶い、一日も早く『美し“あすか”』の魅力を世界中の人々に伝えられることを願っている。

明日香村を中心とする地域『飛鳥（あすか）』は、6世紀末から8世紀初めにかけて歴代の宮都が営まれ、「日本」の国号や「天皇」の称号が生まれ、律令国家体制が初めて形成されたことから、「日本国の始まりの地」と言われる。また、古事記・日本書紀・万葉集に代表される我が国の文学のふるさとであり、その歴史や文学の舞台が1300年以上に亘って田園風景の中に良好に保全されていることから、「日本の心のふるさと」とも言われている。

また、「明日香法」（明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法 1980年5月公布・施行）により、明日香村全域が法規制の対象となり、無秩序な開発の波から守られてきた。この法のおかげで、今なお豊かな田園風景が広がり、多くの歴史的文化遺産をはじめ、万葉集にも詠われた自然や景観、民族文化、伝承芸能等が守り伝えられている。

2. 教育目標

私たちは、「日本国の始まりの地」である郷土『美し“あすか”』を愛し、郷土に誇りを持ち、自立して社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てたいと願っている。

明日香村のめざす子ども像

- 郷土を知り、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、郷土を語れる子ども。
- 夢に向かって自らの生き方を切り開く意欲あるたくましい子ども。

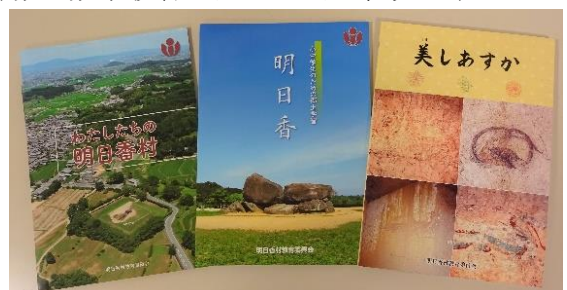
村内には幼稚園・小学校・中学校が1校ずつであり、多くの子どもたちは12年間を同じ仲間と過ごすことになるので、幼小中の12年間をつなぐ教育を実現することが重要であると考え、平成24年度から施設分離型幼小中一貫教育を推進している。さらに、平成31年4月から、幼小中を一つの村立学校とするコミュニティ・スクールとして新たなスタートを切り、地域とともにある学校づくりを進めている。

3. 教育委員会・学校での取組

幼小中一貫教育を推進するために、「15才の自立」を育む一貫教育 ～人・学び・社会をつなぐ～を研究主題とし、郷土学習・英語教育・言語力の育成を大きな柱とし、様々なプロジェクトに沿った委員会や部会を幼小中の教職員で組織し、定期的に会合をもち、学校・家庭・地域・教育委員会が協働して「自立した明日香っ子」を育てることをめざして取り組んでいる。

◇問題解決能力の向上を目指して……令和6年度は、幼小中一貫教育の新たな研究テーマとして『「問題解決能力」の向上を目指して』を掲げ、特に算数・数学教育に焦点を当て、幼小中を通じて、数量への興味・関心を高め、感覚を養い、算数・数学の授業改善をすすめ、全ての教科指導において問題解決能力を高める授業づくりに取り組んだところ。

◇郷土学習……『郷土明日香を知り、郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、郷土を語れる子ども』を育てるため、

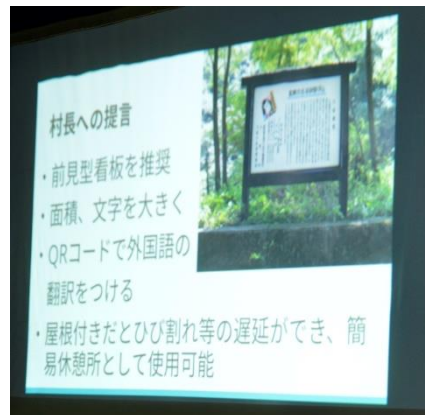


幼小中の12年間を見通した郷土学習を進めている。「歴史」「伝統・文化」「自然」「暮らし」の4つのテーマに沿って、プレ期(幼3～5歳)、前期(小1～4年)、中期(小5～中1年)、後期(中2・3年)に区分【郷土学習副読本 左から前期、中期、後期用】し、12年間の「明日香村郷土学習プログラム」を策定し、これに則って郷土学習を進めている。前期用・中期用・後期用の3分冊の郷土学習副読本を作製し、活用している。

また、後期(中2・3年)においては、「歴史」「伝統・文化」「自然」「暮らし」の中から生徒が自主的に研究テーマを定め、2年間をかけて研究し、「郷土学習研究発表会」において研究の成果を発表する。そのとき、「村長への提言」として、明日香村の今後について研究の中で気づいた事柄を村長に提言する時間を設けている。



【郷土学習研究発表会の様子】



◇世界遺産学習……「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録を視野に入れて、橿原市、桜井市と共同で「飛鳥・藤原 世界遺産学習副読本」の作成を進めている。

この副読本はタイトルを『すごいなあ、わがまち～橿原市・桜井市・明日香村～』とし、①世界遺産とは、②「飛鳥・藤原の宮都」、③飛鳥・藤原の「すごいなあ」をさがそう(19の構成資産を巡る)、④こんなこともやってみよう(子どもの自主活動)の4つの章立てで、令和7年度からの活用を予定している。

今後は、前掲の「明日香村郷土学習プログラム」の中に、世界遺産の教材を適宜組み入れ、総合的に郷土学習を進める。

◇英語教育……「明日香に根差した国際人」の育成を目指し、幼小中一貫教育の柱の一つとして、確かな英語力とコミュニケーション力、郷土明日香を世界に発信する力を身に付ける英語教育に力を入れている。平成26年度から4年間、文部科学省の外国語(英語)教育強化地域拠点事業の研究指定を受け、英語教育の研究開発に取り組んだ。

小学校では、学級担任が主となって、ALTとTTで進める英語授業を行っている。

◇国際交流……海外からの来訪者から要請があれば、小・中学校で積極的に交流を図っている。また、中学生を海外に派遣する取組を続けている。

「日韓のかけ橋」: 明日香村と姉妹都市提携を結んでいる韓国扶余郡へ、中学生10名を派遣。現地の中学生と交流し、史跡の見学等を通して古代の飛鳥と韓国の国際交流を学ぶ。

「明日香の風」: 『あすか』を広く海外に発信する担い手として、英語圏の国へ中学生10名を派遣。

7日間ホームステイしながら現地の学校に通学し、現地の生徒や家族と交流を図る。以前はアメリカへ、現在はオーストラリアのアデレードへ。

◇学校・地域コミュニティ協議会……学校と地域住民が協働で学校教育を充実させることを目的に、平成24年度に『明日香村学校・地域コミュニティ協議会』を立ち上げた。村の広報誌等を通じて協力者を募り、平成25年度から幼小中の教育活動を支援する様々な取組を進めている。

《例》学校・園の花壇や畑の植栽、読み聞かせ、図書室の整理・管理、家庭科の実習の補助、等

4. おわりに

明日香村でも、人口の減少、少子化、高齢化が進んできているが、この10年ほどは子どもの人口が横ばいから微増になっている。今後も郷土を愛し、郷土に誇りを持ち、自立して社会を生き抜く力をもった子どもたちを育てるとともに、明日香村の子育て支援策を充実させ、一日も早く世界遺産の登録を実現し、「美し“あすか”」の魅力を広く発信して、子育て世代の転入増をはじめ村の人口増につながればと考えている。